

血圧・脂質の厳格な管理で認知機能低下や脳容積減少を抑制できず

2型糖尿病患者は認知機能の低下、脳容積の減少、脳の白質病変の増加などのリスクが高い。コントロールができていない高血圧や脂質異常症は2型糖尿病関連の認知機能低下の危険因子である。血圧および脂質の厳格な管理が2型糖尿病関連の認知機能低下を予防する有効な手段であるとする仮説が複数の研究で示唆されている。そこで、本研究ではこの仮説を認知機能テストのスコアおよび脳の形態変化のMR I 所見により検証した。

対象者は試験開始時に認知機能低下もしくは認知症が認められず、HbA1c7.5%を超える北米の2型糖尿病患者2,977人とし、血圧管理試験(1,439人)および脂質管理試験(1,538人)に振り分けた。血圧管理群では標準管理(収縮期血圧の目標値140mmHg以下)または強化管理群(同値120mmHg以下)に、脂質管理群ではLDLコレステロール値を100mg/dL以下に管理した上で、フィブラート群またはプラセボ群にランダムに割り付けた。試験開始時の平均HbA1cは8.3%、平均年齢は62歳、2型糖尿病の平均罹病期間は10年であった。40カ月後の認知機能テストのスコアは血圧管理試験、脂質管理試験ともに強化管理群と標準管理群で有意差はなかった。40カ月後の脳容積は、血圧強化管理群では血圧標準管理群に比べて有意な減少を示した(-4.4cm³; P=0.01)。一方、脂質強化管理群と脂質標準管理群では、脳容積に有意差はなかった。

以上のように、2型糖尿病罹病歴が長く、心臓血管病のリスクも高い患者では血圧の強化管理やLDLコレステロールを管理した上でのフィブラート投与により、40カ月後の認知機能低下には影響がみられなかった。40カ月後の脳容積については血圧の強化管理により減少幅がより大きくなることが示された。

出典：Journal of American Medical Association/Internal Medicine. 2014;

174(3): 324-333